



全国水準突破校の伊岐須小は全校みんなそれぞれの課題から問題に むかって（1学期の総まとめとして）チャレンジしています！

第22代伊岐須小学校校長であられた森山一昌校長先生（故人）に私は、片島小学校で6年担任をさせていただいた時、恥ずかしかったのですが「問題と課題について違いを教えてください。」と学校の枠を超えて飯塚小学校で教頭先生をされていた森山先生に習いに行ったことがあります。なぜなら、片島にいたかしこい先輩教師からいつも研究授業の時にこの言葉でやり込められていたからなのです。辞書にも明確には載っていませんでした。しかし先輩はいつも研究授業のあとに、「史朗先生の今日の授業の主張点は？」と「課題と問題と先生は記述しているけどどがい？」の2つの質問が定番でした。今となっては学習指導案に自分が目指す子どもの姿を書いてあることや、主眼として書いてあることを言えばよかったのに……。と苦笑いしています。

課題と問題の数学のスペシャリストで福岡教育大学小倉付属小で副校長をされていた森山先生に習いに行くのは実は怖かったのですが、優しく教えてくださいました。「史朗！どの教科も課題から問題に発展していく。子どもの思考は最初に与えた課題から問題に発展していかなければならない。自分事として考えられるように思考を誘導するような授業をデザインしなさい。自分事としてとらえられたとき自分の問題として意欲的に調べたりまとめたりして取り組むはずだ。ただ、算数や数学だけは「問題」の意味がちがうのです。自分に課せられた計算問題、文章問題が存在しますね。まあ、いずれも子どもの意識が関係してきます。」と森山一昌（校長）先生から書かれたメモをわたしは自宅の窓にはりつづけて30年。森山一昌校長先生のお亡くなりになられた告別式にそのメモを持参させていただきました。

伊岐須小のお友達は、様々な課題を克服して自分の問題に変化させチャレンジを続ける（当時の）保護者の方のDNAを授かった方のお子様です。全国の平均学力を突破したお子様たちはこの夏、自分で考えて自分に必要なことは何かを見つけるきっかけとなる夏休みとしてほしいと思います。「図書館に行きたい」とか「プールに行きたい。」とか、「歴史資料館に行きたい。」「山に虫取りに行きたい」とかお子さんが言われたときは、自分で問題を持とうとしているそのような瞬間ですので、もし、お休みをとることがあられましたらこの町の図書館やプールや歴史資料館や山でもいいのでお子さんを連れて行ってあげてください。人生が……。キャリアが……。変化のチャンスの夏にしてほしいのです。よろしくお願いいたします。写真は、危機管理を自分事ととらえて問題意識を持った6年生の立派な姿であり、今日の着衣泳の「助けを30分待つ姿勢」様子です。（森山校長先生イズムが子ども達にも宿っているかのようです。ありがとうございます。）

自分事（問題をもって）としてチャレンジする伊岐須小の子ども達の様子（各学年）



二瀬流れの皆さんに夕方メッセージを届けました。朝：飾られていました。
泣きたくなるくらいうれしかったです。どうか・・・ご安全に(^^♪

